

[施策38 上水道]


[施策総合評価]


② (8.0点)

[目指す姿]

市民は、市内において、いつでもどこでも安定的に水道を使用でき、安全でおいしい水を飲むことができます。

[まちづくり指標]

指標1 回収率（水道事業）		現状値						目標値	
①	単位:% (担当課調)	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H32
		86.3	85.7	87	95.1	92.5	94.2	100	100
(指標の説明) 回収率とは、給水に要する費用が給水収益（料金収入）により、どの程度回収されているかを示す割合で、 $\text{供給単価} \div \text{給水原価} \times 100$ の算式で求められます。									
(現状と課題) 人口減少社会が到来し、少子高齢化が進展する中、節水機器の普及など節水型社会が定着し、さらには昨今の社会経済情勢から、給水の増加が見込めない状況であり、供給単価が減少傾向にあります。 しかし、給水原価が前年度より減少したことにより、回収率は前年度より1.7ポイント上がりました。									
(進ちょく度ランク) 進ちょく度 57.7% やや順調 									
(今後の方策) 回収率100%を達成するため、経費節減により給水原価の低減に努めるとともに、財政計画に基づき、適正な料金体系、料金水準となるよう、定期的な料金の見直しを行う必要があります。									

指標 2 地下水を水源とした水道水が、 安心して飲むことができると思 う市民の割合		現状値						目標値	
	単位:% (アンケート)	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H27	H32
		77.9	—	70	—	77.2	—	79	85
②	(指標の説明) 平成 22 年度の市民アンケート調査結果では「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した市民の割合は、77.9%でした。この割合を平成 32 年度までに本施策の推進により 85%に高めることを目標として設定しています。								
	(現状と課題) 水道法の規定に基づく全ての水質検査項目において基準をクリアしています。また、水道水中の放射能物質も定期的に検査を実施し、水質検査結果とともにその結果をホームページに公表しています。								
	(進捗度ランク) 進捗度 $\Delta 9.9\%$ もう一歩								
									
(今後の方策) 水質検査計画や検査結果を随時ホームページで掲載し、さらにはアルミボトル缶「ざまみず」の販売を通じて、地下水の「安全性」と「おいしさ」を積極的にPRすることにより、水道水を安心して飲むことができると思う市民の割合を増やしていきます。									

[内部評価]

385301 配水施設整備事業

総合評価 9点

上水道の安定供給を行うための基礎的な施設整備であり、水質確保は市民生活に直結していることから必要性は高い。優先箇所を考慮して順次、整備していく必要がある。

385304 送水施設整備事業

総合評価 9点

上水道の安定供給を行うための基礎的な施設整備であり必要性は高く、配水施設整備事業と同様に優先順位を考慮して順次整備していくことが必要である。

[外部評価]

アンケート結果（H26年5月実施「まちづくりのための市民アンケート」）

関心度	84.8%	10位/52施策
重要度	5.5%	26位/52施策

外部評価委員（評価・提言 H27年3月実施）

- ① 料金徴収に係る業務を包括的に委託したことにより、市民サービスの向上が図られるとともに、収納率の向上に大きく寄与したものと考えられる。また、定期的な水質検査を実施し、安心安全な水の安定的な供給体制の構築に努力している点は評価できる。
- ② 老朽管の更新については、長期的な再整備計画を推進する中で、財政負荷へ配慮することが今後の大きな課題であり、特段の取組みを求めたい。

外部評価（外部評価委員）に対する対応

- ① 今後も収納率の向上を目指し効率的な業務運営を図ります。また、引き続き水質検査を実施しその結果を公表することで、市民が安心して水道水を利用していただけよう努めてまいります。
- ② 老朽管や老朽施設の更新に当たっては、将来の配水量の増減を見据えながら適正規模で更新を行うことにより財政負担の軽減に努めてまいります。

[施策39 下水道]

[施策総合評価]


Ⓑ (7.4点)


[目指す姿]

市民は、公共下水道の汚水整備がされた区域において各家庭で水洗化が進み、快適に公共下水道を利用しています。

また、雨水対策が進み、集中豪雨等による被害が少ないまちになっています。

[まちづくり指標]

指標1		現状値						目標値	
市街化区域の公共下水道（汚水） 接続率（人口）		H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H32
①	単位：％ （担当課調）	91.5	93.3	94.3	94.4	94.9	95.6	96	100
	(指標の説明) 市街化区域内の人口に対し、公共下水道に接続して、水洗化した割合を示しています。 (現状と課題) 下水道は、市民の生活環境を守り河川や海などの公共用水域の水質保全に必要なものであり、汚水に関する下水道整備は、都市活動にとって必要不可欠なものとなっています。また、本市の市街化区域の汚水に関する公共下水道は、平成26年度末で接続率が95.6%となっています。								
(進ちょく度ランク) 進ちょく度 48.2% やや順調									
(今後の方策) 今後は、汚水に関する公共下水道の接続率向上のため未接続世帯への個別訪問等を行うとともに、下水道の整備を進めてまいります。									

指標 2 下水道の整備が進み、身近な川の水がきれいになってきていると思う市民の割合		現状値						目標値	
単位:% (アンケート)	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H27	H32	
	59.4	—	43.6	—	61.1	—	65	70	
(指標の説明) 平成 22 年度の市民アンケート調査結果では「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した市民の割合は、59.4%でした。この割合を平成 32 年度までに本施策の推進により 70%に高めることを目標として設定しています。									
(現状と課題) 公共下水道の接続率は、平成 26 年度末で 95.6%となっており、未接続世帯への接続の協力を促し、下水道の整備をすすめていく必要があります。									
②	(進ちょく度ランク) 進ちょく度 16.0% もう一步 								
(今後の方策) 今後は、汚水に関する公共下水道の接続率向上のため未接続世帯への個別訪問等を行うとともに、整備に努め、目標である平成 32 年度で 100%の接続率を目指し、整備を進めます。									

[内部評価]

<p>395107 ひばりが丘遊水池用地取得事業</p> <p>総合評価 8点</p> <p>引地川の整備の遅れから雨水災害を低減するため確保していた賃借用地を地権者の申し出により用地取得するもので、ひばりが丘排水区の治水対策として必要である</p> <p>395116 ひばりが丘排水区雨水災害対策事業</p> <p>総合評価 8点</p> <p>当該地区の雨水浸水被害を低減するために必要な事業である。</p>

395207 公共下水道施設整備事業

総合評価 8点

調整区域の整備及び都市型浸水被害の防除のための雨水管の整備率は33.1%であり、さらに促進する必要がある。

395228 公共下水道長寿命化事業

総合評価 8点

昭和48年以降、急速に整備してきた施設が更新時期を迎え、現在の施設の耐用年数を伸ばし、施設更新に要する投資の平準化を図るために必要である。

395316 公共下水道不明水調査・対策事業

総合評価 7点

終末処理場付近での下水道溢水事故防止及び放流水の水質悪化を防止するために必要性は高く、優先性も極めて高い。

395319 下水道事業地方公営企業法適用化事業

総合評価 8点

公共下水道事業は、既に行った建設の投資規模が大きく、資産評価に始まる地方公営企業法適用は、公共下水道事業会計の明確化及び健全化、更に一般会計への依存体制からの脱却等、現実的な収支計画を踏まえた適切な事業実施が必要である。

395322 公共下水道水洗化普及事業

総合評価 7点

市街化区域では100%整備に近づきつつある中で、更なる接続率の向上が求められている。また、市民生活環境の改善や河川の水質保全など必要性は高い。

[外部評価]

アンケート結果（H26年5月実施「まちづくりのための市民アンケート」）

関心度	82.2%	13位/52施策
重要度	4.5%	30位/52施策